

副詞節生成と規則の習得

佐藤 恵子

Learning of Producing Adverbial Clauses

Keiko SATO

はじめに

複文の構造は、2つかそれ以上の命題を何らかの方法で結合して、1文中に残りの命題を組み込んだ拡大文の1つである。結合と言ってもいいし、組み込みと言ってもいいが、その際の方法によって区分できる。伝統文法では、組み込まれた命題の文中における働きによって、名詞節・形容詞節・副詞節に分けてきた。最近では、Quirk et al (1972) などによって、更に動詞の形に基づく下位区分がなされている。前者は表層構造で、後者は深層構造で、主語と述語を持つものを節と呼んでいる。

SATO (1988) では、形容詞節をつくる名詞修飾構造について、日本人大学生の実際を「生成」の観点から数量的に観察して、横断的に習得順序を得た。SATO (1989 a) では、多節構造を生み出す潜在能力と、論理関係発見能力を調べ、その構文化能力と比較した。本論考では第1章で複数の命題を結びつける論理的意味を知覚的に習得しているかどうか、日英両語でテスト分析して再考し、第2章で、英語を自国語とする者は自然に学んでいる、副詞節生成にかかわる諸規則の習得について考察する。

I

「節」の概念と分類

「節」を定義する際、構造指向と機能指向の2つの見方がある。前者は表面に明示的に現れている構造のみを見て、「文と同じ構造、即ちそれ自身の主語と述語を持ちながら、より大きな文の一部である文の要素」と定義づける。一方後者の考え方では、「想定される深層構造において文同様に主語と述語を持つ

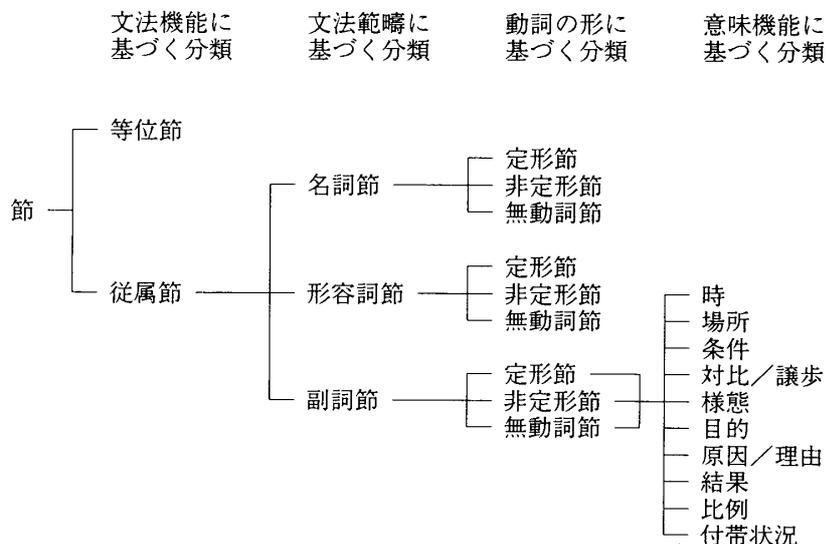


図 1

より抽象的な要素」で、表層構造には、深層時の主語や動詞が必ずしも実際に現れなくてもよい。別の言い方をすると、深層構造の命題は単文で思考されるが、それらが何階段かの変形過程を経て、いわゆる節や句や語になって表層に表わされるし、機能的には全く異質の形態素や統語的な方法が、機能によって分析されると並列されうる単位となる、と考える。従って後者の立場から「節」を分類すると図1のように図式できる。この研究では、特に定形動詞を含む副詞節（伝統文法では単に副詞節）に焦点を置いて詳細に扱う予定である。

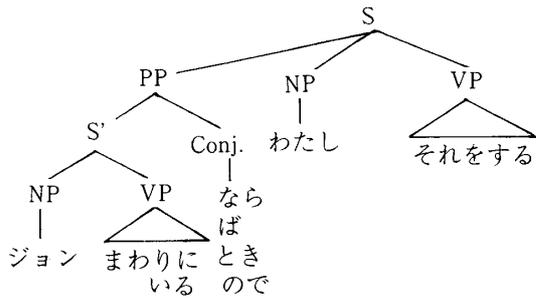


図2

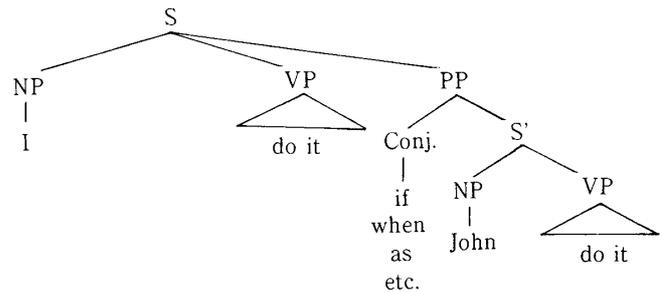


図3

研究の目的と仮説

「従位とは主節より下位の単位に地位が移動することである。」従属節を含む文は、文 (S) の中に別の文が埋め込まれた構造であると言ってもいい。形容詞節が主名詞の下に埋め込まれるのに対して、副詞節は上のSのすぐ下に節の連結詞によって、次の3段階を経て埋め込まれる。1) 2つのSを結ぶ論理的意味関係をつかむことができ、2) それに相当する語を、既に習得して脳の中に蓄えてある辞書 (lexicon) の少数の連結詞リストの中から正しく選択し、3) 正しい位置に使用する。1) は殆ど普遍的であるが、2) と3) は特定言語でそれぞれ独自の表示の仕方があると考えられる。連結詞の位置に関して、日英両語の副詞節埋め込み文は、上のような表層構造であろう。

従って、1) の段階で習得しているものでなければ、次の段階で正しい選択をすることは不可能で、3) の段階に進めない。更に論理的意味関係にも習得順序があるかも知れない。あるとすれば、関係概念そのものに習得し易いものと習得し難いものがあるのだろう。また概念を見出し易くするであろう要素として、文脈がおおいに働くのではないだろうか。これらのことを検証するために次のような仮説をたて、それぞれ実験テストを行ない、その結果から分析と考察を試みた。

仮説 複数の命題を結合するためには、

- 1 言語獲得より、関係概念の習得が先行する。
- 2 関係概念そのものに難易の差がある。
- 3 関係概念の発見に文脈が大きく貢献する。

対応する実験テスト

- 1 2つの日本語による単文を、何か言葉を添えて結合する問題10問。
- 2 4つの選択肢の中から適切な語句を選んで空所を補充する英語の問題10問。
- 3 10以上の短文からなるまとまった内容の英文の段落中、3箇所の空所に連結詞を補充する問題3問。

(以上の各問題は、付録を参照のこと.)

被験者
英語英文科の女子
大学1年生および2
年生、計89名である。

結果と分析

日本語による問題は、被験者にとって容易に解答できるという自信からか、ほとんど抵抗なく直感的に時間もかからないで終わられた。右の表はその結果である。

実現された言語表現には、日本語として微妙にニュアンスが異なるもの、完全には受容できないもの、句読点を考慮にいれていないものも少なからず含まれていたが、ここでは日本語使用の習得度を見るのが目的ではないので、とらえられた関係概念だけに光をあてた。その結果は、率の高い順に理由・譲歩・時の前後・対立で、SATO (1989 a) の英語の順序と一致している。

続いて行った英語の接続詞選択問題の結果は表2の通りである。無解答のあった項は生起数が少なくなっているが、6項目で各々僅か1名ずつで問題の難易を暗示する程の数とは思われないので、考慮に入れなかった。なお、説明を明確にするために、正答と問題になる項のみ百分率を示した。アルファベットにつけられた丸印は、それが正答であることを示す。

この表から分かるように、正答率は高い方から時の前後関係・条件・時の推移・頻度で、理由と否定条件が同じ率でそれに続く。簡略化していえば、条件・時・理由がとらえ易いようだ。しかしこのテストにはすこし問題があり、調査目的以外のことが明らかになった。例えば問い3の-ever形で、次に形容詞 long が来得るのは however のみであるという文法規則の知識不足から正答率が33%と低い結果になった。また問い8の期限の限定では、定形節を結合するのは接続詞(または関係詞か疑問詞)でなければならないのに、waitに続くのは前置詞 for であることが経験上多かったからか構造全体を見ないで決めた者が半数にも達した。これらの事からも、命題の結合にかかわる論理的意味関係を見出す潜在的能力があっても、英語構文の知識

表1

問い	最も好ましいと思われる結合関係	被験者のとらえた結合関係	生起数	百分率	実現された言語表現	
1	条件	条件	70	79	と、ならば、れば、 すると、から、ので	
		理由	12	14		
		その他	7			
2	条件	条件	89	100	なら、ならば、 としたら、それなら	
3	理由	理由	86	97	ので、から、 よかったら、ぜひ、 どうぞ	
		その他	3			
4	理由	理由	89	100	ので、から、 ために、だから	
5	譲歩	譲歩	50	56	でも、とも、て、 むしろ、できれば、 ただ	
		並列	32	36		
		その他	6			
6	時	時	82	92	ら、とき、 から、ので	
		理由	4			5
		その他	3			
7	譲歩	譲歩	89	100	けれど、が、けど、 だが、しかし	
8	対立	譲歩	87	98	が、けれど、しかし、で、 いっぽう	
		対立	2			2
9	時間的前	前時	13	15	まえに、 とき、 ので、ため	
		理由	54	61		
		後	21	24		
10	時間的後	後	57	64	あと、あとで、あとに、 ので、から	
		理由	28	32		
		その他	3			

表2

問い	最も適切な結合関係	選 択 肢	解答数	百分率
1	限定条件	A 譲歩 (even if)	13	62
		B 限定条件 (as long as)	55	
		C 同等比較 (as much as)	12	
		D 懸垂分詞構文 (expecting)	8	
2	理 由	A 譲歩 (even if)	6	74
		B 否定条件 (unless)	7	
		C 譲歩 (though)	10	
		D 理由 (as)	66	
3	程度の譲歩	A 物の強調 (whatever)	7	33
		B 時の強調 (whenever)	29	
		C 程度の強調 (however)	36	
		D 疑問詞の欠落 (nomatter)	15	
4	時の推移	A 継続期間 (while)	6	90
		B 時の推移 (then)	80	
		C 時の前後 (before)	1	
		D 不定詞 (to)	3	
5	否定条件	A 期間の限定 (until)	6	74
		B 一定の時 (when)	2	
		C 否定条件 (unless)	66	
		D 条件 (if)	14	
6	目 的	A 理由 (because)	6	65
		B 目的の不定詞 (so as to)	16	
		C 目的 (so that)	58	
		D 限定条件 (as long as)	8	
7	時の頻度	A 物の強調 (whatever)	4	81
		B 程度の強調 (however)	10	
		C 時の強調 (whenever)	72	
		D 場所の強調 (wherever)	2	
8	時の限定	A 前置詞 (for)	45	51
		B 期間の限定 (until)	42	
		C 一定の時 (when)	1	
		D 時の前後 (after)	0	
9	条 件	A 譲歩 (although)	2	92
		B 条件 (if)	82	
		C 否定条件 (unless)	5	
		D 一定の時 (when)	0	
10	前後関係	A 時の前 (before)	89	100
		B 時の後 (after)	0	
		C 一定の時 (when)	0	
		D 条件 (if)	0	

がなければ正しく言語表現に反映することはできないことを示した。

それでは言語上の文脈があれば、前後の2つの関係を内容や文の流れをヒントにして、容易に思い付き、よりよい連結詞を使用するのではないだろうか。そこで易しい語彙から成る易しい内容の文章段落を与えて、つなぐことばを入れさせる方法を試みた。表3でその結果を示す。生起例のうち下線をほどこしたものが最も好ましい語である。

文脈のあるほうが、いくつかの可能性の中から自由に発想できて、各命題間の関係づけも楽になるだろうという予測と前提に立って行ったテストであったが、はっきり期待を裏切る結果となった。「時」を示す when を正しい文脈に入れた率は81%、

before や whenever の方がよいけれど、when でも意味が通るところでの when の生起率はそれぞれ67%、56%で、when が日本人学生にとって最も思い付き易い接続詞であることを示した。続いて「理由」を示す because を正しく使用した率は73%、「譲歩」は71%であったが、他のテストで3位を占めた「条件」が現れなかった。問題文を更に精選し、もっとおおくの種類の結び付け可能な例を作成して再度調査する必要がある。

II

これまで見てきたように、7割以上の被験者がいくつかの論理的意味関係を正しく見出して適切に副詞節を含む構文を生成できる潜在的能力を持っている。しかし意味関係によっては思い付くことすらまれで、ましてや正しく使うことは非常に難しいものもある。意味に基づくこの分類は、果たして構造的にすべて同じものなのだろうか。近年の生成変形文法によって、副

副詞節生成と規則の習得

表 3

問 い	議論に有意義な 生 起 例	生起数	百分率	その他の生起例
I. (1)	<u>when</u>	72	81	since, because of, with
	during	3		
	both	10		
(2)	<u>when</u>	60	67	as soon as, though, after, and, then, but
	<u>before</u>	3		
(3)	<u>so</u>	49	55	therefore, then,
	and	18	20	because, as, since, while
II. (1)	<u>because</u>	65	73	whom, for, as, if, in fact, that,
(2)	when	50	56	because, though, and, as, so
	<u>whenever</u>	0		
(3)	<u>though</u>	63	71	as, since, besides, so, after all
	because	6		
	but	8		
III. (1)	<u>than</u>	53	60	that, where, then, wherever, which
	and	11		
(2)	<u>if</u>	0	26	which, because, for, where, therefore
	and	23		
(3)	so	26	29	and, as, therefore, for, however
	so that	8	9	
	that	12	14	
	so	8	9	
	which	23	26	
	<u>where</u>	13	15	

詞節の文中における地位が3タイプあることが示された。変形操作等を受ける際の文法現象がそれぞれ異なることによる。その構造図を図4で示す。タイプ別の基になった現象は表4で示す通り、副詞節全体の前置移動の可否、否定辞の作用域内への副詞節の組み入れの可否、分裂文の焦点になる可能性の有無、副詞節後続文の疑問変形の可否等である。タイプIが等位構造に近いことを示すために、等位構造も表に組み入れた。

表 4

「句構造標識の上方に位置している副詞節ほど主節からの独立性が高く、逆に下方にある副詞節ほど主節の一部として組み入れられている度合いが強い。」このような副詞節間の相違を、自国語として臨界期以前に英語を獲得した者は、内在的知

等 位 節			*	*	*	*
制 約			前に出せる	否定辞の作用域に含まれる	分裂文の焦点になる	副詞節後置の疑問文になる
副 詞 節	タイプI	対比、譲歩、結果、理由の for	OK	*	*	*
	タイプII	時、場所、目的、条件、付帯状況、理由の because	OK	*	OK	OK
	タイプIII	様態、場所、継続期間	*	OK	OK	OK

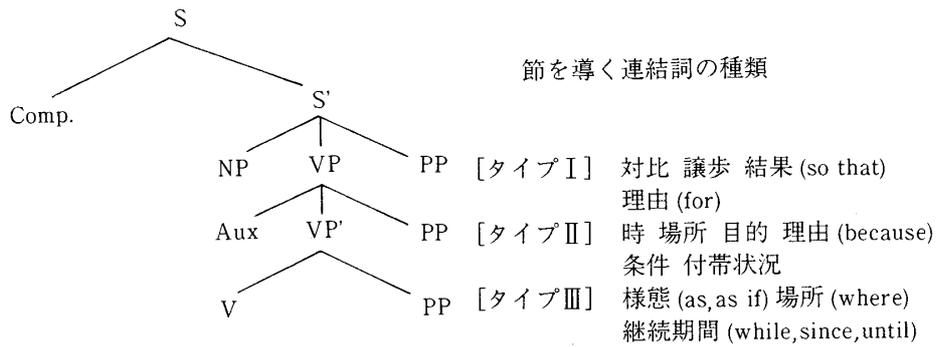


図4

識として脳の中に蓄えている。しかし外国語として臨界期を過ぎてから学習を始めた日本人学生は、副詞節構文生成にかかわるこれらの微妙な差や制約を自然に知ることができるだろうか。そこで次の調査を試みた。

調査方法

定形副詞節構文にかかわる諸制約を含む文を44文提示し、正しいと思うか間違っていると思うかを明らかにさせる。直感だけに頼らせるためには、関連する文を並べない方がいいとも考えたが、あえて並べる方をえらんだ。ある程度関連性を意識させ表層上の差に気づかせたかったからである。間違っていると思った文には、その理由を書かせることも考えたが、被験者の集中力の限界と意識過剰による直感力の低下を恐れて、理由は問わなかった。

(なお問題文はほとんど「現代の英文法一文Ⅱ」から借用した。分析の中で示した例文の番号はテストに用いた番号とは異なる。)

結果と分析

制約A 「継続期間」を表わす副詞節を埋め込んだ構造の動詞は1継続を表わすもの2瞬時的動作の反復を表わすもの3瞬時的動作の否定を表わすもののいずれかでなければならない。

- (1) * John arrived until the party started.
- (2) The guests arrived until the party started.
- (3) John didn't arrived until the party started.

上の例文で(1)は主節の動詞 arrive は3つの条件のいずれもみたしていないので非文であるが、(2)は主語が複数なので動作が繰り返されたことを表わし、条件2をみたしている。(3)は瞬時的動作を否定しているので条件3にあっている。被験者の反応は(1)と(3)では4人に3人が正しかったが、(2)は逆に4人に1人しか正しい文だと思わなかった。主語が単数か複数かが意味に影響を及ぼすことに気付かず、日本語に訳して正否の判断を下しているようだ。

制約B 副詞節内の動詞は、after節, before節, when節では瞬時的なもの、while節では継続的なものに限られる。

- (4) John left after she came back.
- (5) * John left after she waited.
- (6) John got up while she was sleeping.
- (7) * John got up while she came back.

上の文は日本語に訳して考えても(5)と(7)は変だ。意味にかかわる規則は、どの言語も共通して当てはまるのではないかと思われる。控えめに言っても、多くの言語が共有する規則ではな

いだろうか。被験者の4人に3人が正解した。

制約C 「頻度」を述べる whenever 節構文では、主節も従節も反復可能な行為や状態を表す動詞でなければならない。

- (8) John stays at home whenever she is out.
 (9) * John stays at home whenever his father dies.

この規則も当然意味上守らなければならないことは誰にでも理解できる。(8)では93%、(9)では88%の正当率であった。むしろ誤った答えを出した者が10人に1人もいたことが不思議である。

以上、意味に基づく規則は、正しく文意を取ることができさえすれば自国語で考えられるので、殊更規則として述べなくても自然に獲得できるようだ。では、各種の副詞節の、純粋に文法にかかわる制約について考えてみよう。

制約D 副詞節の中から構成要素を外へ移動することはできない。(いわゆる Ross (1967 a) の「島の制約」)

- (10) * What did John stay in bed while Mary washes ____?
 (11) * Where has John been miserable since he began to live ____?

2文とも副詞節内の動詞の目的語あるいは義務的に必要な前置詞句が文頭に移動してつくられた疑問文で、「島の制約」に違反している。これは純粋に文法の問題なのであるが、解釈不能な文を生み出したので、意味から考えて判断できる。従って正答率は高かった。(11)の和訳はいくぶん意味が通りそうなので少しばかり率を下けている。

制約J タイプⅢの副詞節は前置することを許されないが、タイプⅠとⅡの副詞節は前置できる。

- (12) If you hadn't helped me, I would never have been able to finish it.
 (13) * Unless you had helped me, I would never have been able to finish it.
 (14) * As if I was a fool, they treat me.

If 節の前置文にはよく出会うせいか、正しいとした者が80%だったが、if と unless は用法上大きな違いがあることは、学校で教えられないので、unless 節の前置文も正しいとした者が、3人に2人いた。As if 節と while 節も前置できないタイプだが、判断に窮したようで賛否両論だった。日本語は副詞節を先に訳すのが普通であるので、この英語特有の制約は納得し難いと思う。文の中へ深く埋め込まれた要素は外へでられないのである。

制約K タイプⅡとⅢの副詞節は分裂文の焦点になれるが、タイプⅠの副詞節はなれない。

- (15) It is because I can't see the blackboard that I want to sit near the front.
 (16) * It was so that we reached safely by nightfall that we walked all day.
 (17) * It is while she is beautiful that her sister isn't beautiful.

So that 節も目的なら焦点になれるが、(16)は結果なので主節との結び付きが弱いのである。While 節も継続期間なら焦点になるが、対比は等位構造に近いので意味的にも独立性が強い。被験者も意味が取り難かったせいか平均して7割のできであった。

制約L タイプⅡとⅢの副詞節が後置されている文は疑問変形を受けられるが、タイプⅠの同様な文は疑問文にできない。

- (18) Does he manage to meet me if I visit him?
 (19) * Don't they write to each other, although they are brothers?

(18)が成り立って(19)が成り立たないということは、タイプⅡやⅢの副詞節は文全体の中にしっ

かり埋め込まれていて、全体として疑問文にもなれるが、タイプIの副詞節は等位節に近い構造で主節からほとんど独立している状態なので、疑問変形を受けても主節だけにしか変形の影響が及ばず、副詞節が宙に浮くことになるのであろう。They are brothers, but don't they write to each other? または Don't they write to each other? They are brothers. が自然な発話であろう。果たして被験者は判断に戸惑ったようで、平均正答率は60%だった。

紙面の都合で、調べた13の制約のうち7項目だけを概観した。結果を検討できなかった項も加えて、被験者の示した解答から正答率で比較したのが右のグラフである。意味を頼りに判断できるものには正しい判断をくださった者が多く、英語特有の制約で日本語にない

ような規則は判断の結果が割れている。しかし5割を割る項がなかったのは、特に教えられなくても経験からなんとなく養える勘のようなものがあるのではないと思われる。

副詞節生成における制約の内在的知識正誤問題の正答率

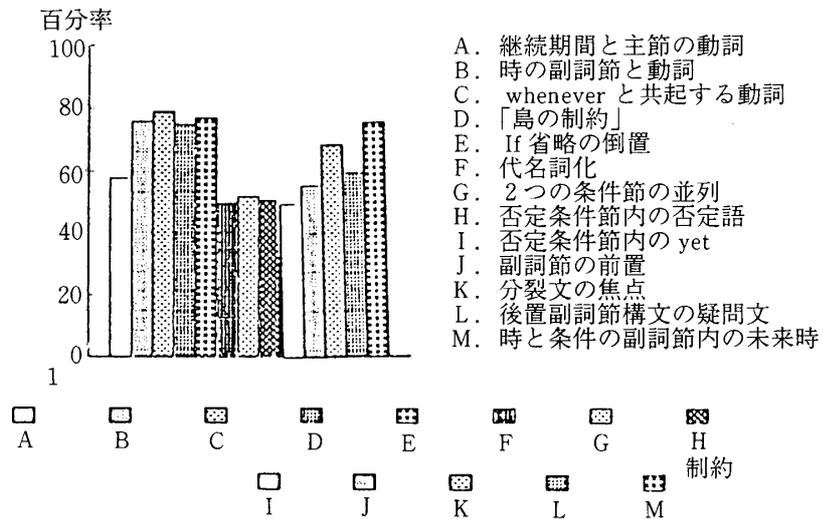


図5

結 論

適当な長さの英文を構成するためには、様々な文法的工夫をしていくつかの命題を結合していかなければならない。その工夫の1つである副詞節を文中に埋め込むためには、意味に基づく結合関係を知り、英語特有の規則や制約を守って作業をする。日本語によるテストの方が英語のテストよりよい結果が出たことから仮説1は証明される。しかし関係概念に難易の差は一部あるようにみえるが、むしろ命題の組み合わせによって難易の差が生じるように思われる。また文脈の関係発見を助ける貢献度は特にみられなかった。自発的に文を発する時は、能力に応じて可能な組み合わせを生みだせばよいが、既成の文の結合では関係が思い浮かばない場合が多いのであろう。

残された問題

文体論の立場から、複雑な構文の中に占める副詞節構文の割合や、大人と子供の差、自国語話者と外国人学習者の差、話ことばと書きことばの違い、ジャンル別文献の間の相違等、統計的調査をする必要がある。また知能や成績との関連性も調べたい。もっと決定的な発見ができるよう、テストの文を修正して再度の調査を行いたい。

参 考 文 献

Bever, Thomas G. and David J. Townsend, "Perceptual Mechanisms and Formal Properties of Main

- and Subordinate Clauses”, *Sentence Processing*, eds. by Cooper and Walker, William E., and Edward C.T., 1979.
- Haiman, John and Sandra A. Thompson (eds.), *Clause Combining in Grammar and Discourse*, John Benjamins Publishing Company, 1988.
- Lindquist, Hans, *English Adverbials in Translation*, Lund University Press, 1989.
- 松浪有, 池上嘉彦, 今井邦彦(編). 『英語学辞典』大修館書店, 1983.
- Nichols, Johana and Anthony C. Woodbury (eds.), *Grammar inside and outside the clause*, Cambridge University Press, 1985.
- 大塚高信, 中島文雄(監修). 『新英語学辞典』, 研究社, 1982.
- 大塚高信, 中島文雄(監修). 現代の英文法 5, 今井邦彦, 中島平三『文Ⅱ』, 研究社, 1978.
- Piaget, Jean, 芳賀純編訳, 『発達の条件と学習』, 誠信書房, 1979.
- Quirk R., Sidney Greenbaum, Geoffrey Leech and Jan Svartvik, *Comprehensive Grammar of the English Language*, Longman, 1985.
- Sato, Keiko, “Learning of Noun-Modification in EFL,” 『愛知大学外国語研究室報第12号』1988.
- 佐藤恵子, 「英語教育における多節構造の習得」『愛知大学外国語研究室報第13号』1989.
- 横林宙世, 下村彰子. 外国人のための日本語『接続の表現』荒竹出版, 1987.

付 録

I 空所に何かことばを入れて, 次の各々2つの日本語の文を結びなさい。

- | | |
|--|-------------------------------------|
| 1. 子どもを無理に勉強させる _____
勉強嫌いになる。 | 6. 部屋にいた _____
外で車の止まる音がした。 |
| 2. 生まれ変わることができる _____
また男に生まれたい。 | 7. あの人は, 体格は立派だ _____
病気ばかりしている。 |
| 3. 明日, 家でパーティをします _____
来てください。 | 8. 私は甘い物が好きです _____
弟は辛い物が好きです。 |
| 4. ゆうべはよく眠れなかった _____
今日は頭が痛い。 | 9. 家を出る _____
戸締まりをした。 |
| 5. 高価な物ではなく _____
心のこもった物をあげれば喜ばれる。 | 10. 宿題をした _____
遊びに行った。 |

II 下の各々の文の空所に入る適切な語句を, その文の下の語句から選んで, その番号を丸でかこみなさい。

- “You may borrow my bicycle _____ you are careful with it.
A. even if B. as long as
C. as much as D. expecting
- _____ I know the money is safe, I will not worry about it.
A. Even though B. Unless
C. Though D. As
- He’s determined to finish the job _____ long it takes.
A. whatever B. whenever
C. however D. no matter

4. As soon as the firebell rang, everyone walked quickly downstairs and out of the building, _____ gathered in the car park.
A. while B. then
C. before D. to
5. You will become ill _____ you stop working so hard.
A. until B. when
C. unless D. if
6. You will have to spend at least one year working abroad _____ you can find out how things operate overseas.
A. because B. so as to
C. so that D. as long as
7. _____ I ask him for the money he owes me, he says he will bring it in a few days, but I don't think he has got it at all.
A. whatever B. However
C. Whenever D. Wherever
8. Wait _____ you get home before you unpack your parcel.
A. for B. until
C. when D. after
9. _____ you do better work than this, you will pass the exams.
A. Although B. If
C. Unless D. when
10. Wash your hands _____ you have lunch.
A. before B. after
C. when D. if

Ⅲ 空所に適切な接続詞を入れなさい。

I. () my friend and I went to Okinawa last summer, we had an exciting experience. () we arrived there, we lost all of our money on the ferry boat. We didn't have enough money to live on there, () we were very worried about how to get money to spend some days with there.

II. I am 22 years old and I am about to graduate from college. Recently, I broke up with my boy-friend () he seemed to be only interested in a casual relationship rather than marriage. () I brought the subject up, he seemed to ignore me. () I really loved him, I don't think he loved me very much.

III. I think that New York City is the best city in the United States to visit. There is more to do and see in New York () in any other city in the U. S.. For example, visitors to New York can go to Broadway plays and the famous museums. There are night-clubs and shows, () they are interested in nightlife. There are also many stores () visitors can enjoy shopping.

IV 次の各文が正しいと思うものに丸を、正しくないとおもうものに×印を、() 内にいれなさい。

1. () John arrived until the party started.
2. () The guests arrived until the party started.
3. () John didn't arrive until the party started.
4. () John left after she came back.
5. () John left after she waited.
6. () John got up while she came back.
7. () John got up while she was sleeping.
8. () He started when the party lasted for two hours.
9. () He started when the clock struck ten.
10. () He came back when I was watching TV.
11. () John stays at home whenever his wife is out.
12. () John stays at home whenever his father dies.
13. () John stays at home whenever he resembles his father.
14. () Jhon stayed in bed while Mary washes dishes.
15. () What did John stay in bed while Mary washes ?
16. () John has been miserable since he began to live in Tokyo.
17. () Where has John been miserable since he began to live ?
18. () I realized when Harry was going to leave and George realized then.
19. () I realized when Harry was going to leave and George realized when Harry was going to leave, too.
20. () If he was to return, we would welcome him.
21. () Was he to return, we would welcome him ?
22. () If you hadn't been with me, I couldn't have made myself understood at all.
23. () Hadn't you been with me, I couldn't have made myself understood at all ?
24. () I will pass you unless you fail the final exam and unless you make less than a C on your term paper.
25. () I will pass you if you don't fail the final exam and if you don't make less than a C on your paper.
26. () Mary will be very angry if Jerry hasn't spoken to Bill yet.
27. () Mary will be very angry unless Jerry has spokin to Bill yet.
28. () I will leave if no one else doesn't.
29. () I will heave unless no one else does.
30. () If you hadn't helped me, I would never have been able to finish on time.
31. () Unless you had helped me, I would never have been able to finish on time.
32. () As if I was a fool, they treat me.
33. () While the party lasted, he waited.
34. () It was so that we might reach safely by nightfall that we walked all day.
35. () It was so that we reached safely by nightfall that we walked all day.

- 36. () It is while she is beautiful that her sister isn't beautiful.
- 37. () It is because I can't see the blackboard that I want to sit near the front.
- 38. () Does he manage to meet me if I visit him ?
- 39. () Will he stay there until she arrives ?
- 40. () Did he speak through a microphone, so that everyone was able to hear him ?
- 41. () Don't they write to each other, although they are brothers ?
- 42. () If he will come tomorrow, we will tell him everything.
- 43. () If it's ready, he will bring it tomorrow.
- 44. () John will leave when he will have finished his homework.